

小項目ごとの評価に関する検討結果（概要）

| 大項目 番号 | 小項目 番号 | 平成29年度計画 | 自己 評価 | | 知事 評価 | 判断理由・コメント（案） | 資料1 ページ数 | |
|-----------|-----------|---|----------|---|----------|---|--|-------|
| 1 | 1 | 迅速かつ正確な検査の実施 | Ⅲ | = | Ⅲ | <ul style="list-style-type: none"> ● 食品中メチル水銀分析、カンピロバクター同定における新試験法を導入するなど最新の知見を取り入れた検査を実施した。 ● 施設の一元化に向けて、森ノ宮・天王寺両センター間での検査の集約を推進するため、各課内でグループ制を導入した。 | ◎ これらの取組みは、計画を順調に実施しており、自己評価の「Ⅲ」は妥当であると判断した。 | P 2 |
| | 2 | 信頼性確保・保証業務の実施 | Ⅲ | = | Ⅲ | <ul style="list-style-type: none"> ● 検査部門と独立した精度管理を担う部門として企画部に精度管理室を設置した。 ● 森ノ宮・天王寺両センター間で異なっていた業務管理要領等を短期間に統一し、早期に同一基準での信頼性保証を達成した。 | ◎ これらの取組みは、計画を順調に実施しており、自己評価の「Ⅲ」は妥当であると判断した。 | P 3 |
| 2 | 3 | 調査研究課題の設定 調査研究の推進 調査研究の評価 | Ⅳ | = | Ⅳ | <ul style="list-style-type: none"> ● 今年度から開始した薬剤耐性菌の行政依頼検査について、独自に遺伝子型別解析を実施し、院内感染の拡大防止に寄与した。 ● 外部有識者による調査研究評価委員会の総合評価は5段階で【平均3.94】と高評価を得た。 | ◎ 今年度から開始した薬剤耐性菌の行政依頼検査について、独自に遺伝子型別解析を実施した。また、調査研究では、外部有識者からの総合評価で【平均3.94】と高評価を得るなど、計画を上回った業務実績として、自己評価の「Ⅳ」は妥当であると判断した。 | P 4 |
| | 4 | 共同研究の推進と調査研究 資金の確保 | Ⅲ | = | Ⅲ | <ul style="list-style-type: none"> ● 競争的外部資金への応募奨励活動の結果、応募件数が72件となり、数値目標の【40件】を達成した。 ● 国、自治体や企業等からの受託研究21件、企業や大学等との共同研究18件実施した。 | ◎ これらの取組みは、計画を順調に実施しており、自己評価の「Ⅲ」は妥当であると判断した。 | P 8 |
| 3 | 5 | 感染症情報の収集・解析・ 提供業務の充実 | Ⅲ | = | Ⅲ | <ul style="list-style-type: none"> ● 大阪府より運営を委託される基幹地方感染症情報センターにおいて、感染症解析評価委員会を毎週開催し、府内保健所、医師会等と情報共有を行った。 ● 感染症発生動向調査に検査データや疫学情報等を加えて解析を進め、成果を行政担当部局に助言した。 | ◎ これらの取組みは、計画を順調に実施しており、自己評価の「Ⅲ」は妥当であると判断した。 | P 1 1 |
| | 6 | 研修指導体制の強化 | Ⅲ | = | Ⅲ | <ul style="list-style-type: none"> ● 府市及び府内自治体の監視員等に対する技術研修を27回実施（目標【12回】）、また公衆衛生関係者や学生等に対する研修の受講者が350人であり（目標【200人】）、設定した各数値目標をそれぞれ達成した。 | ◎ これらの取組みは、計画を順調に実施しており、自己評価の「Ⅲ」は妥当であると判断した。 | P 1 2 |
| 4 | 7 | 全国ネットワーク及び国立 研究機関との連携 全国の地方衛生研究所との 連携 行政機関等との連携 | Ⅲ | = | Ⅲ | <ul style="list-style-type: none"> ● 全国地方衛生研究所の各関連会議で発表・講演等の実施により技術レベルの向上を図るとともに、他の地方衛生研究所からの協力依頼に応えるなど連携を図った。 ● 府内各中核市では対応できない高度な行政検査を受託することで、各中核市における行政対応に貢献した。 ● 大阪市立環境科学研究センターとの間において、衛生と環境の両分野にまたがる共同研究を実施した。 | ◎ これらの取組みは、計画を順調に実施しており、自己評価の「Ⅲ」は妥当であると判断した。 | P 1 4 |

| | | | | | | | | |
|---|----|---|---|---|---|---|---|-------|
| | 8 | 健康危機事象時における研究所の果たすべき役割 平常時における健康危機事象発生時への備え 災害時や健康危機事象発生時における連携 健康危機管理対応 | Ⅲ | = | Ⅲ | <ul style="list-style-type: none"> ● 健康危機管理実施要領等の作成、健康危機事象模擬訓練への参加など、平常時における健康危機事象発生時への備えを行った。 ● 全国ネットワークや各種学会等へ参加し、ネットワークづくりや最新の情報を収集するとともに、所内研修によってその情報を還元し健康危機管理対応能力の維持・向上を図った。 | ◎ これらの取組みは、計画を順調に実施しており、自己評価の「Ⅲ」は妥当であると判断した。 | P 1 6 |
| | 9 | 疫学解析研究への取組み | Ⅱ | = | Ⅱ | <ul style="list-style-type: none"> ● 部門の設置へ向けて、疫学解析研究を担う人材の確保について、大学等と情報交換を行った。 | ◎ 大学等との情報交換にとどまり、疫学解析研究の着手に至らず、計画を十分に実施できなかった。 | P 1 9 |
| | 10 | 学術分野及び産業界との連携 | Ⅳ | = | Ⅳ | <ul style="list-style-type: none"> ● 年度計画に掲げた大学や企業等のニーズ把握のみに留まらず、大阪大学医学系研究科および薬学研究科と博士課程の教育研究に対する連携・協力に関する協定を締結することで連携大学院の開設に至った。 ● 大阪大学微生物病研究所と共同研究等の実施における連携協力に関する協定書や、一般財団法人阪大微生物病研究会とワクチン開発に必要な臨床分離株の試料提供契約をそれぞれ締結した。 | ◎ 大阪大学医学系研究科および薬学研究科との連携大学院の開設に向けた協力協定を締結、また、阪大微生物研究会とワクチン開発に必要な臨床分離株の資料試料提供契約等を締結するなど計画を上回った業務実績として、自己評価の「Ⅳ」は妥当であると判断した。 | P 1 9 |
| 5 | 11 | 組織マネジメントの実行 事務処理の効率化 組織体制の強化 検査・研究体制の強化 適正な料金設定 | Ⅲ | ≠ | Ⅱ | <ul style="list-style-type: none"> ● 森ノ宮・天王寺両センター間での業務統一化に向けた工程表の検討を開始するとともに、一部業務の集約化を決定した。また、機器の共同利用を開始し、検査の連携実施体制を構築した。 ● 法に提出期限が定められた財務諸表等の提出について、作成が遅れ、適当な時期に監事監査を受けることが出来なかったことから、提出が遅れた。 | ◎ 両センター間での業務統一化に向けた工程表の検討を開始するとともに、一部業務の集約化を決定するなど、両センター間での連携の取組みを推進した。一方で、財務諸表等の作成が遅れ、適切な時期に監事監査を受けることが出来ず、府及び大阪市への関係書類の提出が遅延するといった地方独立行政法人法の規定に反する事実が確認されたことから法人のマネジメントが十分に機能していなかったと判断し、評価を「Ⅱ」とした。 | P 2 2 |
| | 12 | 人材の育成及び確保 研修制度の確立 人事評価制度の確立 | Ⅲ | = | Ⅲ | <ul style="list-style-type: none"> ● 研究機関として基本的な研究倫理研修、新規採用職員研修等を整備した。 ● 職員の職務能力及び勤務意欲の向上を図るための人事評価制度について、制度構築のため調査・研究に着手した。 ● 職員表彰等規程を設置し、理事長表彰制度を設けるなど組織のモチベーションアップを図った。 | ◎ これらの取組みは、計画を順調に実施しており、自己評価の「Ⅲ」は妥当であると判断した。 | P 2 4 |
| 6 | 13 | 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置 | Ⅲ | ≠ | Ⅱ | <ul style="list-style-type: none"> ● 入札実施に向けた体制を整えた上で、法人ホームページを活用し24件の一般競争入札を実施した。 ● 法人の会計規程に規定された月次決算が行われておらず、監事から改善を求められるなど、適切な予算管理が行われていなかった。 | ◎ 入札実施に向けた体制を整えた上で、法人ホームページを活用し一般競争入札を実施した。一方で、法人の会計規程に規定された月次決算が行われておらず、監事から改善を求められるなど、適切な予算管理が行われていなかったと判断し、評価を「Ⅱ」とした。 | P 2 6 |
| | 14 | 安全衛生管理対策 環境に配慮した取組の推進 コンプライアンスの徹底に向けた取組 情報公開の推進 | Ⅲ | = | Ⅲ | <ul style="list-style-type: none"> ● 安全衛生対策における職場環境の監視、研究所として病原体や化学物質の適正管理等により、事故の防止に取組んだ。 ● 法人におけるコンプライアンス確保のため、職員から広く意見を募集し行動憲章を策定した。 | ◎ これらの取組みは、計画を順調に実施しており、自己評価の「Ⅲ」は妥当であると判断した。 | P 2 8 |
| | 15 | 施設及び設備機器の活用及び整備 | Ⅲ | = | Ⅲ | <ul style="list-style-type: none"> ● 一元化施設の整備に向けて関係官庁との調整を進めるとともに、必要諸室等の検討を進め、基本計画を策定した | ◎ これらの取組みは、計画を順調に実施しており、自己評価の「Ⅲ」は妥当であると判断した。 | P 2 9 |